

講義名	対2)ソーシャルワーク総論			授業形態	
担当教員	岩崎 久志	開講期・曜日・時間	前期集中 その他 その他		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

ソーシャルワーク総論 に引き続き、ここでは、ソーシャルワーク及び社会福祉士の役割と意義について学ぶ。特に、ソーシャルワークの歴史に焦点をあてながら、社会福祉の援助技術であるソーシャルワークがどの様に形成され、どの様に発展してきたのかについて学ぶ。また、少子高齢社会における現代社会の多様な生活問題に対しての包括的な支援のあり方について学ぶ。

到達目標

ソーシャルワークの専門職に限らず、広く対人援助にかかわる職種にとって必要なソーシャルワークの方法の理念やアプローチについて理解できる。社会福祉の援助技術であるソーシャルワークの人間観や援助関係についての理解できる。

提出課題

その都度指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題の提出や小テストを実施した直後の授業において、講評や特徴的な記述内容等の紹介を行う。それに引き続いて、解説を実施する。

評価の基準

授業態度（授業に臨む姿勢や貢献度など）、授業毎の振り返りおよび期末試験によって総合的に評価する。評価の配分としては、概ね授業における課題や振り返りのコメント等を踏まえた平常点が4割、期末試験の点数を6割として評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

私語厳禁、授業に積極的に参加すること。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

その都度指示する。

授業計画

1. 現代社会において、ソーシャルワークは何をすべきか、社会において期待されているのか。
2. 専門援助技術としてのソーシャルワーク登場と発展
 - (1) ソーシャルワークの源流とアメリカにおける発展
3. 専門援助技術としてのソーシャルワーク登場と発展
 - (2) メアリー・リッチモンドとケースワークの誕生
4. 専門援助技術としてのソーシャルワーク登場と発展
 - (3) 診断主義ケースワークと機能主義ケースワーク
 - (4) 診断主義ケースワークの面接事例及び機能主義ケースワークの面接事例
5. 専門援助技術としてのソーシャルワーク登場と発展
 - (4) ソーシャルワークの専門職化と心理主義的アプローチに対する批判
6. 専門援助技術としてのソーシャルワーク登場と発展
 - (5) ケースワークの「ソーシャル」への回帰
 - (6) パールマンの「役職概念」の導入と「問題解決アプローチ」
7. 助けを求めない人々の発見とソーシャルワーク
 - アウトリーチアプローチとアグレッシブ・ケースワークの登場
 - エンバウンドアプローチの登場
8. アグレッシブケースワーク 事例と考察
9. エンバウンドアプローチの展開と事例
10. グループワークの起源と展開
11. グループワークとグループダイナミクス
12. グループワークの原則
13. 様々な場所で展開されるグループワーク事例
14. ソーシャルワークと地域福祉との連携
15. ソーシャルワーク総論の振り返り

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="checkbox"/> A: PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> I: 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> U: ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E: グループワーク
<input type="checkbox"/> O: プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> C: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K: その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

できるだけソーシャルワーク総論 で学んだ内容を踏まえ、授業に臨んでほしい。
予習としては、毎回提示する次回授業で取り上げる内容予告を参考にして、現代社会における福祉や生活問題との関連を想像しながら、対人援助のあり方について意識を持って授業に参加するよう心掛けることを望む(約2時間)。
復習は、授業内容を自分なりに整理し、配布資料や授業にて紹介する文献等も参考にしつつ、知識を習得するべく努めてもらいたい。また、疑問点やわからないことがあれば、遠慮なく質問をしてほしい。不可解なことを積み残しにしないで、徹底解決しながら知識を増やしていく喜びを味わってほしいと思っている(約2時間)。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- (1) 学科共通
ますます高齢化社会が進む現代社会において、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業することができる。
- (2) スポーツマネジメントコース
する。「みる」「きかえる」の視点で、スポーツをキーワードとする関連事業分野、業種において企画運営に携わることが出来る。
健康課題やスポーツ産業などの多様な社会的背景と今後の課題と対応策について、分析、評価、企画を行うことができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ディスカッションや社会問題に関わる教材・視聴覚資料等を用いた課題を通して、双方向授業を展開する。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
社会福祉施設において相談援助業務に従事した経験を活かして、具体的な対人援助場面におけるソーシャルワーク(社会福祉援助技術)の活用方法や事例の紹介を行う。そのことにより、受講生には理論に基づく疑似体験学習が可能になる。

備考

ソーシャルワーク総論 を履修済みであることが望ましい。